パスハ

ХристосВоскрес!
(フリストス・ヴァスクレス
＝キリストが復活した!)
Воистинувоскрес!
(ヴォイスティヌ　ヴァスクレス
＝本当に復活した!)

2010年4月4日(日曜日)は、ロシア正教会最大のお祭り、パスハ。日本語では復活祭、英語ではイースターと呼ばれています。キリストが十字架にはりつけにされ死んでから3日後に生き返ったことを祝うものです。クリスマスと違い、復活祭の日は春分の日の後の一番近い満月の後の一番近い日曜日となるため、毎年違います。上の言葉は、復活祭のあいさつの言葉です。

1年に一度しか言わないので、つい忘れてしまい、毎年息子に教えてもらっています。

復活祭には新しい命が生まれるシンボルとして卵を飾ります。ゆで卵に彩色したり、絵をつけたりし、復活祭の朝には「卵ぶつけ(二人で互いに卵をぶつけて、割れた方が負け)」をしてから食べます。ロシア帝政時代ロマノフ王家の陶器や貴金属で作られた卵のコレクションは有名です。また、この日にはクリーチという筒型のケーキを食べます。クリーチは、一年にこの復活祭と、その約2週間後にやってくるお墓参りの日の時だけに売られます。

今年も3日(土)に、日本人教師仲間と日本人の知り合いを我が家に招き、復活祭の卵づくりをしました。みんな初めての経験で楽しそうでした。夕食後、夜中近くに、みんなで教会へ。

キリスト教徒である私も、復活祭の礼拝に行くのは初めてのこと。以前に一度行ったことがありますが、あまりの人の多さに諦めたことがあります。真夜中12時に教会の鐘が鳴り、司祭たちが大きな十字架や吹流しのようなものを持ち、人々を引き連れて教会の周りを歩いた後、教会内で礼拝が始まりました。ロシア正教の礼拝は、合唱隊の賛美歌と司祭のお祈りが掛け合いのように交互に入ります。それがやむことなく3～4時間続くということだったので、私たちは1時間ほどで教会を出ました。ロシア正教会は、椅子がありませんから、立ちっぱなしの長丁場はつらいですよ(そんなことを言うようでは信心が足りない?)。教会内は多くの人々と皆が掲げるろうそくの火で暑く、お香の匂いと煙でむせるようでした。しかし、美しい教会の鐘の響きと礼拝の賛美歌とお祈りの調べに、心が洗われたような気がしました。

復活祭の話題は毎年書いているので、「またか」と思われるかもしれません。しかし、お正月同様、こうした年中行事を無事に迎えられることに対する感謝の気持ちが年々大きくなっています(年をとってきた証拠でしょうか)。

【オリホヴィク・美香】北見生まれの北見育ち。ロシア人の夫と中学生の息子の3人家族。サハリン在住。